

Winny開発者逮捕に思う

～少数が大多数に影響を与えるインターネット～

Winny 開発者逮捕

Winnyの開発者が逮捕されました。大方の予想通り、ハイテクに熱心な京都府警が逮捕に踏み切りました。Winnyの開発者が罰せられるかどうかは司法の決する所でありますので、ここではWinnyがもたらしたものと、今回の逮捕がもたらしたものを考えたいと思います。

Winnyは匿名のファイル交換ソフトであり、匿名性があることから、映画などの著作物の違法コピーを交換するソフトとして、一躍有名になりました。Winnyで最新映画をダウンロードして楽しんでいる、という人もいたようです。

そして、Winnyが扱う映画などのファイルは非常に大きいため、プロバイダーにとってWinnyは困った存在でした。当社においてもWinnyのトラフィックが大半を占めていたこともあります。

そこでWinnyの使用制限をする会社も出始めました。

今回の逮捕劇で、Winnyのトラフィックは激減しました。このことは、プロバイダーにとって“ほっとした”出来事であったことは間違いありません。それは、1)トラフィックが減って全体に快適になったこと 2)これ以上、不法行為をする人が減り、自社のユーザーから逮捕者を出す心配がなくなったこと、の2つです。

このように社会的にも大きな問題になったWinnyですが、ではユーザー数はどのくらいだったのでしょうか？

正確な統計などありませんし、あくまで私見ですが、全体の千分の一くらいではないでしょうか。

千人に一人のユーザーがWinnyを使っただけで、大渋滞を起こしていたのです。

インターネットで犯罪行為は絶対ダメ 必ず足がつく

インターネットは匿名の掲示板など、“匿名”で出来る、というイメージがあります。しかし、その認識は間違いです。

匿名掲示板で有名な2ちゃんねるは、IPアドレスを記録しており、問題のある書き込みを見つけると、すばやくプロバイダーと警察に連絡をしています。

最近では警察からの捜査の前に2ちゃんねるから連絡があるので、警察から連絡があると、あ、あのことだな、とわかるようになりました。

プロバイダー責任法でプロバイダーの責任が明確化されたため、IPアドレスからすべてわかってしまうと考える方がいいのです。

少数の荒くれ者が社会を乱す

さきほど、Winnyは千人に一人くらいしか使っていないのに、インターネットで大渋滞を引き起こした、と書きました。

もっとすごいのが、SPAMメールでしょう。SPAMメールは、多分一人に一人、あるいは十万人に一人かもしれません。それほど出す人は少ないのです。

しかし出すSPAMメールの数が半端でなく多いため、影響はとて大きなものです。

例えば、多くのプロバイダーは、Pop before SMTPという、送信するには、受信をしてからでないといけない仕組みを取り入れました。これがあるおかげで、

一万人のうちの善良な9999人は、必要もないのに先に受信をすることになりました。たまに送信トレイに送信メールがあると、送信も受信も出来なくなって困る、という状況が起きたりするので、

本来なら必要のない、SPAMチェックのソフトを入れたり、ゴミ箱に捨てる「振り分けルール」を作ったり、大切なメールをSPAMメールと間違えて削除してしまったりするので、

無法者とウィルスは海を越えてくる ウィルスとSPAMから鎖国を

SPAMメールは、今では海外からのSPAMメールが大半です。日本でもたまにありますが、法律に則ったものであれば、「未承諾広告」というタイトルが入っているため、そのタイトルで削除できます。法律に違反したものは、当社も厳正な対処をしており、減少傾向にあります。しかしながら、海外のSPAMメールは、SPAMリストに掲載されているものを削除、というのが最良の方法ですが、これでも半分くらいしか削除できません。

各プロバイダーや、ユーザーが個別に、ウィルスや海外からのSPAMに対応するのは非常にばかげていると私は思います。太平洋の海底ケーブルがあがっている、三重の阿児(*)などで、ウィルスとSPAMを叩き落してほしい、それが日本のインターネットの繁栄につながるはずと確信しています。

(*)阿児 三重県志摩郡阿児町。伊勢志摩国立公園内。風光明媚な阿児でいつか社員旅行をしてみたいです。